

鎌倉映画茶論【無法松の一生】

「カフェサンスーシ」映画鑑賞の集い

名作は何度見ても新たな発見と感動を与えてくれます



3月15日(木)

16時より無料上映

坂東妻三郎特集!

於: カフェサンスーシ

(鎌倉雪の下 3-10-23)

清泉小正門前

要予約 0467-23-7223

毎月第三木曜16時～感動の名画・永遠の名優と共にお過ごし下さい

～ 作品紹介 ～

1943年(昭和18年)大映 稲垣浩監督 99分(現80分)

明治30年小倉に無法松と呼ばれる俠気のある人力俵夫(坂東妻三郎)がいた。無法松こと松五郎は、堀に落ちた少年・敏雄(沢村あきを:長門裕之)を助け、陸軍大尉吉岡小太郎の家に入りこむようになるが、吉岡大尉は急死する夫人のよし子(園井恵子)、敏雄から頼りにされるようになった松五郎は、二人に献身的に尽くすが、やがて敏雄は小倉中学を経て熊本五高に入学する。小倉の祇園太鼓の日、松五郎とは疎遠になっていた敏雄(川村禾門)が、夏休みで久し振りに五高の先生(戸上城太郎)を連れて帰省、張り切った松五郎は先生の案内役を引き受け、山車に乗って本場小倉の祇園太鼓を打つ。数日後、松五郎は吉岡家を訪ね、夫人に対する思慕を打ち明けようとするが、「ワシの心は汚い」の一言を遺して、彼女のもとを去ったのだった。その後、酒に溺れ、遂に雪の中で倒れて死んだ松五郎の遺品の中には、夫人と敏雄名義の預金通帳と、吉岡家からもらった祝儀が手を付けずに遺されていた!